

ゼロエミッション研究会  
活動成果レポート

2020



地球の未来を子どもたちに残そう

公益財団法人

Save Earth Foundation

## 実践で学ぶ！食品ロスの削減と持続可能な食品リサイクルループの構築

2020年度の研究会では、2019年度に構築した愛知県名古屋市の共同食品リサイクルループの参加者拡大と、新たに群馬県東部を舞台にした食品リサイクルループの構築を目指すとともに、食品ロスの削減もテーマに掲げ、各回ごとに様々な専門家を講師に招き、「理論と実践」の2軸展開での勉強会を企画しました。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、当初の1年間の開催予定を9月からの7か月間の開催に凝縮し、感染症対策に万全を期して実施しました。

通期講師には、2019年度から引き続いての百瀬則子理事と志岐秀明理事に加え、2020年度より Save Earth Foundation の顧問に就任いただいた東京農業大学名誉教授の牛久保明邦先生にもご参加いただきました。

9/17  
(木)

### 第1回勉強会

昨年度から継続参加の外食事業者に加え、食品関連事業者は製造、卸売、小売の各分野から、また再生利用事業者や行政担当者など、食品資源の循環に関わる様々なプレイヤーが集い、3名の通期講師から2020年度のキックオフとなる講演をいただきました。

牛久保顧問は、食品リサイクル法制定の背景、見直しの経緯、現状の施策についてレクチャー。参加者からは「廃掃法、食品リサイクル法の背景や位置づけが大変わかりやすく理解できた」と感想をいただきました。

志岐理事は、廃棄物処理業界を取り巻く危機的状況と、排出事業者に与える影響を想定し、排出事業者として「やっちはならぬこと」と「やらねばならぬこと」を整理して解説。参加者からは業界外では知れない情報が多く有益だったという声が多く上がりました。

百瀬理事は、食品リサイクルループとSDGsというテーマで、食品関連事業者とSDGsの関わり、食品リサイクルループの構築が果たす役割といった内容をレクチャーいただきました。参加者からは「食品を食品として戻すことの大切さを深く理解できた」という今後の取り組みへの決意を伺うことができました。



10/22  
(木)

### 第2回勉強会

第2回勉強会では、メインコンテンツとして、弁護士の佐藤泉氏に「新型コロナウイルスその影響と今後の廃棄物政策」というテーマで講演いただきました。新型コロナウイルスの流行が社会・食品業界・廃棄物業界にどのような変化をもたらすかについて、また2019年5月に発表されたプラスチック資源循環戦略の基本的方向性が定まりつつある中で、今後私たちにどのような影響が想定されるかなど、最新の情報を交えながら分かりやすく解説頂き、新たな時代に向けて廃棄物管理に対する企業のあり方を検討する上でのヒントを提供いただきました。

その後、牛久保顧問、志岐理事、百瀬理事の3名と佐藤泉氏を交えた質疑応答とディスカッションを行いました。専門家4名の関心を持っている事柄から事業系一般廃棄物、食品ロス、容器包装・フードバンク・賞味期限設定の課題なども含めて様々な討論が展開されました。

最後に、今期のゼロエミッション研究会の企画である群馬東部エリアの食品リサイクルループ構築に向けての情報共有と次回に向けた確認を行いました。



1/21  
(木)

### 第3回勉強会

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言の発令期間中であることを受けて、Web形式での開催となり、26社40名と多くの方にご参加いただきました。

「食品ロス・食品リサイクル対策の最新状況」というテーマで、農林水産省食料産業局バイオマス循環資源課食品産業環境対策室食品ロス削減・リサイクル班食品ロス削減・リサイクル推進係の長谷部勝係長と、環境省環境衛生・資源循環局総務課リサイクル推進室の小早川鮎子課長補佐から、食品ロス・食品リサイクルの現状と、農林水産省及び環境省における来期の施策について情報提供をいただき、通期講師3名、参加者との質疑応答・意見交換が行われました。

後半では食品リサイクルループ企画の進捗状況について事務局からの報告を行い、併せて、昨年度の研究会で取り組んだ名古屋市の外食5社共同食品リサイクルループの取組が第8回食品産業もったいない大賞を受賞したことを報告しました。



2/18  
(木)

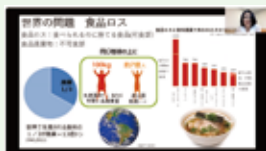
### 第4回勉強会

1月の第3回勉強会同様 Web形式での開催とし、22社30名に参加いただきました。東京農業大学国際食料情報学部の入江満美准教授をお招きし、「食品ロスの現状と削減・活用の方向性」というテーマで、情報提供をいただきました。

農業が土地利用変化に与える影響に関する研究をメインに、世界の食品ロス事情、食品循環資源の農業への新たな活用方法の開発などのテーマにも取組まれている入江先生から、農業の視点における食品リサイクルループの目的と意義、また食品ロス問題について貧困や教育といった視点からみた現状の課題と解決の方向性を示していただきました。

その後、通期講師3名と参加者との質疑応答・意見交換が行われ、これまでの講師の方々とは違った観点での分析や見解が多く、参加者の皆様からは非常に有意義であったとのご意見をいただきました。

後半では、名古屋地域の共同食品リサイクルループの状況、群馬東部で計画している食品リサイクルループ企画について、事務局および参加各社から進捗報告がありました。



3/25  
(木)

### 第5回勉強会

緊急事態宣言の解除を受けて会場参加と Web参加のハイブリッド形式で開催し、会場で12名様、Webで18名様に参加しました。

はじめに今期の食品リサイクルループ構築の成果として、ユニテッド・スーパーマーケット・ホールディングスの菊地様から「カスミ大泉店食品リサイクルループ構築」の事例発表をいただきました。

その後、百瀬理事、牛久保顧問から「食品リサイクルループ参加事業者の「役割・責任・義務」について」というテーマで、食品関連事業者においては環境部門と商品部門の連携がポイントとなり、農畜産物を商品として提供できる体制を整えることの重要性が改めて訴えられました。

また、今期振り返りとして名古屋地域での外食5社共同リサイクルループの現状と拡大に向けた課題について、5社の担当者からそれぞれ現状の共有をいただいたのち、志岐理事からアドバイスをいただきました。参加者からの質疑応答や意見交換も活発に行われ、今期最終回にふさわしい2時間となりました。



今年度の研究会における取組テーマでもある、群馬東部エリアでの食品リサイクルループの実現に向けて、排出事業場・飼料化施設の視察と、飼料化事業者および配合飼料メーカー担当者を招いての情報共有・意見交換を行いました。参加者は28名と、多くのご参加を頂きました。



● 排出事業場の視察

まず、ユナイテッド・スーパーホールディングス(株)様のご協力にて、既に食品循環資源を飼料化施設に処理委託している「カスミフードスクエア大泉店」様の視察を行いました。店内での分別方法や保管方法等のお話を伺い、廃棄物庫を視察しました。



● 飼料化施設の視察

続いて、(有)高尾商店様が運営する飼料化施設「館林エコフィードセンター」にて、代表取締役の高尾様より食品循環資源の飼料化における安全性の確保の方法や施設概要等について、現場を確認しつつ、ご説明頂きました。



● 情報共有・意見交換

①「飼料化事業と飼料安全法改正について」  
食品リサイクルループに参加を検討する食品関連事業者に向けて、排出事業者としての責務について、中部有機リサイクル(株)の前川様に講演頂きました。特に、豚熱等の伝染病対策に伴う飼料安全法の改正が飼料化事業に与える影響を中心に、分かりやすくご説明頂きました。

②「エコフィードの利用状況について」  
配合飼料メーカーである日本農産工業(株)の香川様、高橋様より、エコフィードが他の飼料と比較してどのような特性があるのか、飼料原料としての視点で家畜栄養の面からその有効性についてご説明頂きました。

今回の見学会で、群馬東部エリアでの食品リサイクルループ構築に関わる全ての関係者との顔合わせを完了しました。

今期研究会の成果

今期から本研究会に参加している、ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス(USMH)傘下のカスミ株式会社が運営するカスミフードスクエア大泉店(群馬県邑楽郡大泉町)で発生する食品循環資源を、同邑楽郡千代田町にある高尾商店館林エコフィードセンターで飼料化し、ゆで卵として買い戻してカスミ店舗の弁当原料に利用する食品リサイクルループを構築。2021年3月に食品リサイクル法に基づく再生利用事業計画の認定申請書を農林水産省と環境省へ提出しました。

～カスミ大泉店 食品リサイクルループ構築～

デリカのゆで卵入り弁当製造によるリサイクルループ



今後、USMHでは参加のマルエツ、マックスバリュを対象とした取組の拡大を検討しています。合わせてSEFでは、今回構築できたパートナーシップを基礎として、群馬県東部、埼玉県北部等を対象とした同業他社による共同食品リサイクルループの構築に取り組みます。

第8回食品産業もったいない大賞を受賞

～外食5社連携による共同食品リサイクルループの構築、大臣認定取得が評価～！

外食事業者5社共同での食品リサイクルループ構築による地域循環共生圏の構築及び外食産業の再生利用等実施率向上への貢献について、第8回食品産業もったいない大賞(主催:公益財団法人食品等流通合理化促進機構、協賛:農林水産省)の農林水産省食料産業局長賞を受賞しました。

この表彰は、食品産業の持続可能な発展に向け、「省エネルギー・CO2削減」「廃棄物の削減・再生利用」「教育・普及」などの観点から、顕著な実績を挙げている食品関連事業者ならびに食品産業によるこのような取組を促進・支援している企業、団体および個人を対象としています。





公益財団法人

Save Earth Foundation とは

私たちは、美しい地球を未来の子どもたちに残すため、限りある自然資源を有効利用し、持続可能な循環型社会づくりに貢献することを目的として活動しています。

事業内容：食品リサイクルループと廃棄物の適正処理を推進する資源循環事業と、森林の再生保全、生物多様性の保全、環境教育を推進する森林再生事業に取り組んでいます。

所管官庁：内閣府大臣官房（公益法人行政担当室） 代表理事：渡邊美樹

## 【賛助会員 入会のご案内】

会員特典：ゼロエミッション研究会に無料でご参加いただけます！

食品リサイクル、廃棄物関連法令、廃棄物管理など、様々な分野の専門家からのアドバイスを受けることができます！

## 【賛助会員 年会費】

特別賛助会員：1口 500,000円 賛助会員（民間）：1口 50,000円 賛助会員（個人）：1口 10,000円

# 2021年度



# ゼロエミッション研究会開催決定！

小売・外食の  
環境・CSR 担当者  
必見！

## テーマ：理論と実践

### ◆食品リサイクルループの構築、拡大

- ・名古屋エリア参加者拡大、群馬エリア共同ループ構築、新規構築地域の提案
- ・消費者への訴求方法：認証マークの検討など

### ◆食品ロスの削減、活用策の検討（アプリ活用、消費者訴求策など）

**日程** 第1回 05月20日（木） 第2回 07月15日（木）  
 第3回 09月16日（木） 第4回 11月18日（木）  
 第5回 01月20日（木） 第6回 03月17日（木）  
 ※各日とも 15時～17時30分

**対象** SDGsへの取組を推進したい食品小売業・外食産業の環境・CSR担当者

**費用** 70,000円 / 社（賛助会員は無料）

**会場** 公益財団法人 Save Earth Foundation 事務局  
（ワタミ本社ビル8階会議室）

※各回の詳細はメール、ホームページ等でご案内します

お申込み  
お問い合わせ

スタッフが詳しく説明いたします。まずはお気軽にお問い合わせください！

公益財団法人 Save Earth Foundation 事務局  
TEL: 03-5737-2744 E-mail: info@save-earth.or.jp



美しい地球を子どもたちに残したい  
公益財団法人 Save Earth Foundation

TEL:03-5737-2744 FAX:03-5737-2793 E-mail:info@save-earth.or.jp